

えがお



川口市立岸川中学校 保健室 令和5年5月2日発行

いよいよ、ゴールデンウィーク後半です。
新学期からの疲れや緊張をほぐして、体も心もリフレッシュしましょう！
また、5月になり、気温が上昇しました。
急な暑さに、からだ慣れていないこの時期は、熱中症にかかることもあります。
体育や部活動があるときは、必ず『自分専用の水筒』を持参して、水分を補給してください。

5月8日より **新型コロナウイルス感染症は「5類感染症」になります**

主な変更点

学校における新型コロナウイルス感染症対策も、変わります。



1 健康観察

- ① 登校前の健康観察を継続して行ってください。
※本人や家族の健康状態や体温の記入・提出は、不要となります。
- ② 発熱や喉の痛み・咳など、普段と異なる症状があるときは、無理して登校しないで自宅で休養してください。5月8日からは、『出席停止』ではありません。欠席となります。
※いつもと違う症状があるときは、受診をおすすめします。
医師より『感染症』と診断された場合は、『出席停止』となります。

2 出席停止期間(新型コロナウイルスに感染した時、学校を休む期間)

- ① 「発症したあと5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで」

【例1】

0日目	午後から発熱
1日目	病院を受診・検査を受ける
2日目	新型コロナウイルス感染と判定
3日目	自宅療養
4日目	根熱が下がる
5日目	症状が軽快*して1日目
6日目	登校可能

↓
発症後、10日を経過するまでは、マスクを着用してください。

【例2】

0日目	午後から発熱
1日目	病院を受診・検査を受ける
2日目	新型コロナウイルス感染と判定
3日目	自宅療養
4日目	〃
5日目	根熱が下がる
6日目	症状が軽快*して1日目
7日目	登校可能

↓
発症後、10日を経過するまでは、マスクを着用してください。

※「症状が軽減」とは、解熱剤を使用せずに解熱し、かつ呼吸器症状が改善傾向にあること

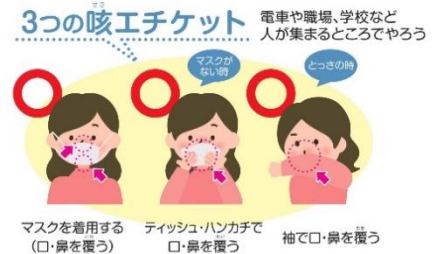
3 濃厚接触者について

濃厚接触者の特定は行いません。

※同居家族が新型コロナウイルスに感染しても、感染者との接触や食事をして、出席停止にはなりません。登校は可能です。

◇◆学校・家庭で行う感染症対策 ※校内で感染が広がった場合は、対応が異なる場合があります◇◆

家庭で行うこと		①登校前の健康観察(健康状態や体温の記入・提出は不要) ②発熱・院疼痛咳など、普段と異なる症状があるときは、無理して登校しないで自宅で休養。 ③感染症対策持ち物(ハンカチ・ティッシュ・必要に応じてマスク)を持ち歩く ④「十分な睡眠」「適度な運動」「バランスのとれた食事」で、抵抗力を高める
学校で行うこと	授業中	①換気。 常に、2方向(校庭側・廊下側)の窓を開ける。 体育館などの広い場所も、換気する ②手洗い 登校時・外から教室に入ったとき、 トイレのあと、給食の前後は、石鹸で手を洗う ③朝の健康観察・ハンカチチェックを行う ④咳エチケットを守る
	給食	①給食当番は、健康観察⇒手洗い⇒エプロン・マスクを着用 配膳室前で、アルコール消毒、配膳室では無言で行動 ②給食当番以外の生徒は、手を洗い、静かに待つ。 給食はランチョンマットを敷いて、前向きで食べる
	清掃	①日常の清掃。水拭きで、ていねいに拭く(消毒は不要)



ご報告

岸川中学校保健委員会の取組が、埼玉新聞で紹介されました

【令和5年4月29日(土)付 埼玉新聞】 「こだまプロジェクト」メッセージは、保健室前に掲示しています

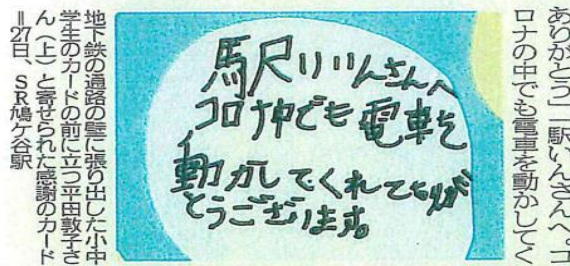


川口「こだまプロジェクト」

みんなにありがとう

今年2月、川口市内の小中学校の学校応援団の活動をしている浜田由美子さん(70)と平田敦子さん(64)が「コロナ禍でお世話になったみんなに感謝の気持ちを届けよう」と呼びかけたところ、3月末までに幼稚園2園、小学校18校、中学校7校が応じ、園児や児童生徒たち約2千人から手書きのカードが集まった。カードは30日まで埼玉高速鉄道(SR)の市内3駅構内で展示している。(岸鉄夫)

平田さんたちは、22年に「医ができた。平田さんたちはこの療養院で働く人たちに感謝の気持ちを「こだまプロジェクト」と命名。今回の第2弾は医療機関だけでなく、身の周りの「みんなへありがとう」にした。児童らは「先生へ、いつもいろいろなお話をしてくれてありがとうございます」「駅へ行ってあんなにいい話を聞かせてくれてありがとうございます」と、廊下の中でも書きを動かして「届け感謝」の気持ちを伝えている。



地鉄の駅の壁に張り出した小中学生のカードの前列に平田敦子さんと呼ばれた感謝のカード27日、SR駅舎公衆

小中生ら感謝込めたカード展示

平田さんがよく注目したのは岸川中の保健委員の生徒たちのカード。「かぞのみんなへ。普段、恥ずかしくて言えないけど、いつも感謝しています。ありがとう」と中心に書き、周りに一人一人のカードを張った。女子生徒が書いたと思われるカードには「お母さん、お父さんへ。仕事が大変なのに私のためにいろいろしてくれてよね。いっぱい慰めてくれたお母さん。やさしくしてくれたお父さん。ふたりがいなくなった学校へ行けなかつたと思います。」「中学生は思春期で父母にありがとうなんて言いません。でもこのカードでは心の中を書いている。すばらしい」と平田さん。

「カードを読むと、コロナ禍でも子どもたちはちゃんと見るべきものを見ていることが分かる。成長する子どもたちの心が見える」と平田さんは話した。